

氏名	治 徳 通 博
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第1732号
学位授与の日付	昭和61年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	DECREASED PLASMA FIBRONECTIN IN LIVER DISEASES CORRELATED TO THE SEVERITY OF FIBROTIC, INFLAMMATORY AND NECROTIC CHANGES OF LIVER TISSUE (肝疾患で減少した血漿フィブロネクチンは肝組織の線維化、炎症及び壊死の程度に related )
論文審査委員	教授 太田善介      教授 木村郁郎      教授 栗井通泰

### 学位論文内容の要旨

肝疾患に於ける血漿フィブロネクチンの変動及びその肝の組織学的変化との相関を検討する目的で、Enzyme-linked immunosorbent assay法を開発し、腹腔鏡下肝生検で診断した肝疾患患者の血漿フィブロネクチンを測定した。

血漿フィブロネクチンは肝硬変で有意に低値を示し、急性肝炎では健常人と差が無かった。腹腔鏡的所見での検討では、肝表面の結節形成が進むにつれ有意に低値を示した。肝の組織学的変化との検討では、血漿フィブロネクチンは肝の線維化、細胞浸潤、壊死の程度が進むにつれ低値を示した。このことより、肝疾患に於ける血漿フィブロネクチンの変動は、慢性肝疾患の肝障害の程度を反映することが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は肝疾患に於ける血漿フィブロネクチンの変動及びその肝の組織学的変化との相関を検討する目的で、Enzyme-linked immunosorbent assay法を開発し、腹腔鏡下肝生検で診断した肝疾患患者の血漿フィブロネクチンを測定したものであり、肝疾患に於ける血漿フィブロネクチンの変動は、慢性肝疾患の肝障害の程度を反映することを示唆することを示した臨床的に有意な業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。